

Forest通信 令和4年 2

No.396

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター



高尾山のいきものたち

ニホンイタチ (イタチ科)



細長い身体に短い足。走る姿は、長い胴体を丸くまげて、尺取り虫のようにも見える。体長は雄で約32cm、雌は約21cmで、毛の色は茶褐色から黄褐色。顔は小さく真ん中が暗褐色になっていて、目と耳が丸い。

河畔や湖沼、森林などの水辺のある環境を好み、冬眠はせずに、空腹な時に昼夜に関わらず餌を探すが、ある程度人間を避けて活動している。餌はネズミや鳥、カエル、魚、昆虫類などで、果実など植物も食べる。指の間に水かきがあり水に潜って魚を獲り、爪が鋭く木にも登る。餌となる生き物が豊かな場所に棲み、自然のものしか食べないので、都会には適用できていない。そのため、東京周辺では、魚の多い川沿い、里山など一部にしか残っていない。
(森林インストラクター 藤原 裕二)

驚き桃の木 高尾の記

NO.7



高尾山だってあなどれない！

強い寒波が来ていた昨年の大晦日深夜から元日早朝にかけて、国有林野内の山火事防止パトロールを行いました。これは八王子市の関係機関からなる協議会が毎年行っている「高尾陣馬特別警戒」で、林野庁からは東京神奈川森林管理署から5名、当センターから2名の計7名が出動し、分担区域である高尾山頂から小仏城山までの間（往復約2時間）を深夜時間帯に4往復しました。大晦日とはいえ、この時間帯に奥高尾山域を歩く人は少ないのではと思っていましたが、計8時間のパトロールの間に175名もの登山者に行き会いました。中には単独行で陣馬山まで行く予定だという人もおり、暗闇の中の歩行もさることながら思わず「イノシシやクマに会いませんように。」と祈ってしまいました。

パトロールですれ違う登山者などに火気取り扱い注意のお願いをしました。幸いたき火や火の不始末などは見られませんでした。最近では昨年6月にロープウェイ山上駅付近の山林内でボヤが発生し

ており、観光客や登山者が多い山だけに山火事には十分な警戒が必要です。

また、山での事故については、新型コロナウイルス感染症流行前の2017年には、1年間で107件もの遭難・死傷事故（死亡5件、重傷18件）が発生したそうです（高尾山岳救助隊調べ）。高尾山は身近な山ですが、傾斜が非常に急なところが意外と多いので絶対に油断は禁物です！（枝）



暗闇の中をパトロール



都心方面の街明かり（山頂から）

公募イベント 森林カレッジⅣ

当センターでは、専門家の講義や森林作業などを通じて、一般の皆様には人々の生活や環境と森林の関係について学ぶ森林環境教育講座「森林カレッジ」を毎年開催しています。

本年度最後の森林カレッジⅣを、1月15日（土）に日影沢にある自然学習体験施設（炭焼き小屋）において開催しました。連日の寒波で気温の低い中でしたが、午前中に炭焼き体験、午後には東京大学名誉教授の谷田貝先生の講義を行いました。

午前中の炭焼きは、地面を掘って作った「伏焼き窯」2カ所で実施です。伏焼きの説明から始まり、炭にする竹材を釜の中に並べ、断熱材としての落ち葉を敷き詰めたりしました。そしていよいよ焚き口から火を入れ、団扇を使って絶え間なく熱風を吹き込みます。しばらくすると、煙突から勢いよく煙が出てきます。30分前後で自動的に煙が排出される状態になったところで一段落。煙に手をかざし温度や湿度、煙の色の変化を観察しました。

午後は、谷田貝先生の講義「森林の恵みと共に～炭焼き、そして森の香り～」を行いました。谷田貝先生は、世界各国を巡り様々な炭焼きの現場を見聞されているので、講義の内容も変化に富んでおり、国々の文化的な背景や経済的な分野に至るまで、炭焼きを通しての独自の視点での講義は、受講された皆さんにとって興味深い内容でした。

講義後、花炭の作成と事前に焼いていたドラム缶窯からの炭の窯出し実演を行って、できあがった竹炭を持ち帰りいただき、本年度の森林カレッジは修了となりました。

受講された皆さんからは、毎回「大変勉強になった」との感想をいただき好評を得ている本講座なのですが、本年度は新型コロナの影響により第1回の「森林カレッジⅠ」が開催中止となってしまう、残念ながら4講座すべての開催とはならなかったことが心残りでした。（磯）



皆さん交代しながら窯内へ竹材並べ



煙の変化を観察



豊富な内容の矢田貝先生の講義



伏焼き窯の前で記念撮影

出前森林教室

多摩市立 連光寺小学校

1月18日(火)と19日(水)の2日間、多摩森林科学園の連光寺試験林を利用して、多摩市立連光寺小学校の5年生58名が竹の炭焼きを体験。「いろんな工程をできるだけ児童達に体験させてください。」という学校サイドの思いに沿って進めました。

開校式の後6班に分かれ、まずはスコップを手に伏焼き用の窯づくりからスタート。炭焼き用に自分たちで割った竹の敷並べ、断熱用の落ち葉入れ、鉄板乗せ、土被せの工程を経て、焚き口から熱風を送り込みました。煙が出始め、窯内の温度が上がってきたところで昼食。午後は、多摩森林科学園の大石先生とセンター職員による森林学習の後、窯閉めと花炭づくりをして1日目が終了。

翌日は、期待に胸を膨らませつつ窯出し。土や落ち葉をどけると、きれいな竹炭が姿を現しました。虹色に光る炭を見て「きれいにできた!」との声。炭は全員が持参した袋に入れて持ち帰りました。

閉会式では、児童から「炭と二酸化炭素についての説明が分かりやすかった」、担当の先生から「普段見られない児童の活発な姿を見ることができました。今後もこの学習活動を続けていきたい」との感想をいただきました。(高)



竹を並べ終わったら、次は落ち葉入れ!



きれいな炭がたくさんできたよ!

森林教室

東村山市立 南台小学校

1月27日(木)に東村山市立南台小学校の児童60名が森林教室に訪れました。

真冬の底冷えのする中、全体を6グループに分け午前中は森林観察、午後は2グループに分かれて森林学習と丸太切り体験を実施しました。

森林観察では、野草は枯れているため花の写真を見せながら花言葉や名前の由来を説明すると、興味深く聞いていました。途中の炭焼き小屋で、スギの葉を焼いた匂いを嗅でもらったところ「嗅いだことあるぞ」「線香の匂いだ」などと声を上げていました。更に、2週間前に焼いた伏焼きの炭窯の中を見せ、できあがった竹炭を触ってもらいました。

森林学習では、森林の働きや林業について、解説する職員のジョークを交えたお話に笑い声が上がっていました。

丸太切り体験では、慣れないのこぎりに悪戦苦闘していましたが、全員2枚以上切ることができました。切った後の輪切りの皮剥きも楽しらしく、丸太切りより夢中になっている児童もいました。

閉校式では「今日は楽しかったです。」「森林のことを知ることができた。」など10名以上の児童の感想を聞くことが出来ました。寒い1日でしたが、これで本日の工程終了。児童たちは手を振りながら元気に帰路に就きました。(皿)



森林とSDGsのつながりもわかりやすく説明



丸太の薄切り、透けてきれい!

10月から12月撮影分より抜粋

高尾山に設置のセンサーカメラが捉えた一ホンジカ



植物を食べる様子



編集後記

まだまだ寒い日が続いていますが、庭園や公園などではロウバイやシナマンサクなどの花が咲き始め、目を楽しませてくれています。

シナマンサク



Forest通信 NO.396

発行：林野庁関東森林管理局
高尾森林ふれあい推進センター



ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1
TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>